

核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会

平和の大切さを伝えることが私たちの使命

～県内各地から300名が核なき世界を求めて結集～

核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会



主催者を代表して挨拶する今泉裕連合福島会長
現実的に難しくなっている。私たちが求める平和行動の目的は、多くの県民の皆さんに平和の大切さを伝えていくことであり、そのためには本日集会に参加された皆さん一人ひとりが、語り部になっていかなければならない。私たちはこれからも、



平和アピール宣言を読み上げる
会津地域連合田中事務局長

核兵器の廃絶は緊急不可欠な課題であること。悲惨な被害が二度と起こらないように、今後も継続して平和運動を粘り強く取り組んで行くとした、「2015ふくしまからの平和アピール宣言」を採択して、平和を求める福島県民集会は閉会となった。

連合福島主催による「2015年核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」は、8月22日（土）福島市にある福島県教育会館大ホールにおいて、県内各地の加盟組織から約300名が結集して開かれた。

冒頭、主催者を代表して今泉裕連合福島会長は「戦後70年を迎えた今、広島、長崎に投下された原爆は、私たちの想像をはるかに超える破壊と犠牲を生んだ。被爆世代の平均年齢も80歳となり、原爆の脅威と悲惨な実態を語り継がれることが



ご講演を頂いたピースデポ湯浅副代表

平和の尊さと戦争の悲惨さを継承する責任世代として、平和運動がいかに大切なものであるか訴えていきたい。」と挨拶した。

引き続きNPO法人ピースデポ副代表の湯浅一郎氏にお越し頂き、「核兵器廃絶と恒久平和～核なき世界を北東アジアから」と題して講演を頂いた。湯浅副代表は、「核兵器の廃絶と恒久平和を求めることは一つに繋がっている。」と訴えた。

最後に唯一の被爆国として、全世界からの核



熱心に傾聴する参加者の皆さん